

農業による生きがいと 楽しみを求めて

天川村農業委員会

1. 天川村の農業の概要

天川村は、吉野郡の中央部に位置し、面積は175.70km²。紀伊山地主部にあたる吉野山地の中心に立地し、総面積の97%を林野が占めています。村の基幹産業は、林業であったが、第一次産業の長い不況と過疎・高齢化による後継者不足で、昨今は観光産業に力が注がれています。農業は、耕作しているほとんどの農家が、第二種兼業農家であり、農耕地は面積が狭く、特に畑地は急傾斜地に不規則に空けていることや日照時間が少ないこともあり、生産性はきわめて低く、自給的な農業となっています。また、追い討ちを掛けるように近年、獣害(サル、シカ、イノシシ等によるもの)が拡大する傾向にあり、猟友会に駆除を依頼していますが、いまだに農家を悩ませているのが現状で、遊休農地も増える傾向にあります。

2. 農業委員会の取り組み

①具体的な取り組み内容

天川村農業委員会として、生きがいと楽しみのある農業の推進を目指します。

①大きな問題となっている有害獣被害について、獣害対策に取り組んでいます。

主に、田畑への獣による被害防除として、有害防護柵設置支援を村とともにしています。

被害が拡大しつつあるサル対策として、電気柵の研究、導入を奨励しています。

②遊休農地の解消に向け、農家の意欲増進のために新たな地域特産物を検討しております。

現在、「サルナシ」の試験栽培が順調に2年目に突入しました。

③自給自足の農業から販売を目的とした農業の推進に取り組んでいます。

豊かな自然環境によって作られる野菜は大変おいしく、自給自足のために作ったので、安心して口にできます。

天川村では、平成21年5月 直売所「てん」がオープンしました。

この物産品販売所の一角で野菜直売所を開き農業者が作った野菜を村内外の人に販売できる施設です。自分の作った野菜が評価され買ってもらえる場所ができ自給自足の農業から野菜を作る喜びと、生きがい生まれ生産意欲が増します。

農業委員会の3つの取組が、遊休化していた農地の耕作再開や、農作物を有害獣から守ろうと積極的に有害防護柵を設置するなど、農業に対する意識の高まりとなるよう、生きがいと楽しみのある農業を目指して、これからも活動を進めていきたいと思ひます。

